

(別紙様式2) 利用学習報告書

平成29年1月10日

仙台市富沢遺跡保存館館長 様

仙台市立沖野小学校

校長 吉川 隆雄

担当 第6学年 鈴木 一裕

「地底の森ミュージアム・縄文の森広場利用学習報告書」の提出について

表記の件について下記の内容で提出いたします。お取り計らい方よろしく申し上げます。

記

1 事後指導について

(1) 実施日

・平成28年4月22日(金)～4月28日(木) ※ 施設利用日4月21日(木)

(2) 主な内容

・社会科の授業で、体験学習や見学学習で分かったことを新聞に表す。

2 送付する資料(作品4点・感想8点)

(1) 児童の学習後の感想

<地底の森ミュージアム>

○地下では、2万年前の森の跡など、そのままの姿で見ることができ、たき火の跡、生活の跡などがありました。最初見ただけではよくわからなかったけど、案内してくれた人が教えてくれたので、よくわかりました。また、実際に木をさわらせてもらいました。感触はとてつるつるしていました。いろいろと勉強になり、とても楽しかったです。

○体験で、石器作りをしました。石を選ぶときに、なるべくうすいを選ぶといいと教えてもらいました。そこから、シカの角ではじっこをたたき、上の方をとがらせて、物を切れるようにしました。やってみると意外と難しく、あまり先の方がとがりませんでした。「昔の人はこうやって作っていたんだなあ」と思い、とても楽しかったです。



○地底の森ミュージアムで分かったことがたくさんありました。まず、旧石器人には定住する家がなく、狩りをしていたので毎回場所を変えていたそうです。狩りの時に使うやりの先には石器という道具をつけていました。石器はやり先だけではなく、動物の肉や皮を切るためにも使ったそうです。二万年前の森の跡には、たき火の跡がありました。それ以外にもシカのふんや木の根や木の幹もありました。さわってみるとつるつるしていました。地層を見ると、旧石器時代からだんだん最近になるにつれて土が上にかぶさり、二万年前の地層は今の地面の5メートルも下にありました。

○昔の人は頭がいいなあと思いました。どれだけ大変だったのかも分かりました。旧石器時代の人は何をしてどうしていたのか、見たわけではないので分からないけれど、見学を終えてなんとなく知ることができ、新しく分かったことや知りたいことも増えて、とても楽しかったです。これから勉強することに生かして、がんばりたいです。

<縄文の森広場>

○縄文の森広場では、たて穴住居跡など、人が集まって暮らしていた跡が見つかりました。また、土器もたくさん出土したそうです。展示されていましたが、やはり縄文土器というだけあって、縄の模様がついていました。たて穴住居も復元されていました。暗く、すずしかったです。意外に快適でした。ちゃんと、虫が来ないように火をたいたりして、すごいと思いました。

○縄文時代のアクセサリー、勾玉作りをしました。資料によると、縄文人はピアスもしていたそうで、意外におしゃれだったんだなと思いました。本当はひすいで作るそうですが、私たちはやわらかい石を使って作りました。ブロック→やすり→細かいやすりの順で仕上げていきました。きれいにできてよかったです。できあがってみると、一人一人模様が違ったりして、おもしろかったです。



○私が縄文の森広場で一番心に残ったものは、たて穴住居です。中に入ると意外に広く、しっかり作ってあってすごいと思いました。屋根に草や土が乗っていたので、最初は住居ではなく小さい山だと思いました。縄文時代の人は頭がいいなあと思いました。

○私が一番楽しみにしていたのは勾玉作りです。どうやって作るのかなと思っていたら、なにやら白い石で作るみたいです。まず白い石をレンガでけずっていきます。だんだん形を整えていきます。初めは角張っていた白い石が、丸い勾玉の形にしっかりなりました。今度行った時は、もっと時間をかけて、すごくきれいに作りたいです。

(2) 児童の作品（新聞4点） 別紙にて送付

担当：第6学年 教諭 鈴木 一裕

TEL 286-2831 FAX 286-2888

Email oki-ren@sendai-c.ed.jp